

## 【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-1-050  
補助事業名 平成26年度 国際交流の推進活動 補助事業  
補助事業者名 公益財団法人ジョイセフ

### 1 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

資源循環型社会に向けて自転車リサイクルを推進するとともに、発展途上国の母子保健や思春期保健サービスを提供するため、保健ボランティアの育成と医療従事者の研修を強化し、情報提供の環境を整備することにより、もって公益の増進に寄与する。

#### (2) 実施内容

##### 1. カンボジアの思春期保健プロジェクト

人づくりと環境づくりを通して、若者の命と健康を守り、未来の可能性を広げます  
([http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/where/cambodia\\_project/](http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/where/cambodia_project/))

カンボジアは、経済成長も著しく、インドシナ半島の新たな投資先としても注目されていますが、経済発展の陰で、人口の3分の1以上を占める若者が命と健康にかかわるリスクにさらされています。



例えば、望まない妊娠と人工妊娠中絶、薬物の乱用や性感染症、HIV/エイズの問題。性とからだに関する正しい知識を若者が十分に身につけていない、恥ずかしさと不安から医療施設で相談や受診することをためらってしまう、など様々な理由が背景にあります。

2010年に行われた10歳から24歳の思春期および若者を対象とした調査では、妊娠したことがあると答えた女性のうち33%が中絶を経験していたことや、女性と男性のそれぞれ43%と30%が性感染症にかかっても治療を受けなかったことなどが明らかになりました。

カンボジアでは早く出産することが望まれ、避妊は子どもを産み終えた夫婦のためのものという考え方も根強く、若者が避妊の知識は持っても、気軽に立ち寄り相談やサービスを受けられる保健医療施設が十分でないために、避妊を十分に実行できていないという実情もあります。

そこでジョイセフは、2014年4月より、支援者の皆さまからの寄付金および補助金(公

益財団法人 JKA) を活用し、バタンバン州のオ・チャーコミュニティ（人口1万8000人）で、人づくりと環境づくりに焦点をあてた若者支援モデルプロジェクトを、IPPFカンボジアと協働で実施しています。

支援の担い手となるのは、問題を抱える若者と同世代の若者です。プロジェクトでは、41名の若者をピア・エデュケーター（仲間教育）として育成し、彼らを通して村の若者や中高生たちに、避妊や性感染症、HIV/エイズ予防など、自らの体と命を守るために必要な知識を伝え、行動の変容を促します。



バタンバン州は国境が近いことからタイへの出稼ぎも多く、望まない妊娠をしたり性感染症などに感染して戻ってくる若者がいるため、出稼ぎに行く前にピア・エデュケーターから正しい情報を伝えることも重要になります。

プロジェクトでは、若者がパソコンやスマートフォンからアクセスでき、オンラインで IPPF カンボジアの専門スタッフと相談ができる若者向けウェブサイトを開発し、プロジェクト地域だけでなくカンボジア全土の若者たちにも情報を発信していきます。

### 【プロジェクトのポイント】

#### ① 若者向けウェブサイトの開発

性と体、避妊や性感染症など若者の関心や悩みについて、若者の視点で正しい情報を発信し、若者が安心して受診できる IPPF カンボジアのクリニックなどサービス拠点の情報も紹介します。若者がEメールで専門スタッフの助言を得られる仕組みも導入します。



#### ② 若者から若者へ知識を伝える

地域と学校の推薦を受けた若者をピア・エデュケーターとして育成します。ピアは村の若者たちを集め、またクラスルームの時間を使い啓発セッションを行うほか、問題を抱えた若者の自宅を訪問し必要なサポートを行います。



#### ③ 若者が相談・受診しやすい環境づくり

クリニックスタッフに若い患者への接し方をはじめとした若者にやさしい保健サービスの提供について研修を行い、妊娠や病気などで困ったり、様々な悩みを抱える若者たちが、安心してクリニックに来ること



ができるよう、環境づくりに取り組みます。

## 2. ピア・エドゥケーターやコミュン関係者とのワークショップ

[\(http://www.joicfp.or.jp/jp/2014/09/30/24255/\)](http://www.joicfp.or.jp/jp/2014/09/30/24255/)



2014年9月にジョイセフから専門スタッフを派遣し、基礎研修を終えたばかりのピア・エドゥケーター17名とコミュン関係者5名の計22名を対象に、コミュニケーションをテーマに2日間のワークショップを公益財団法人JKAの補助金により開催しました。

ワークショップ1日目は、妊娠や出産を含め性と生殖に関する体のしくみをしっかりと理解できるように、マギーエプロン（エプロン型リプロダクティブヘルス教育教材）の使い方を説明し、実践してもらいました。



例えば、避妊の話。

避妊方法の種類はたくさん知っているけど、なぜ、そしていつ避妊をしなければならないのか説明するのは簡単ではありません。月経や妊娠などの体のしくみと関連付けるだけでなく、自分やパートナーを大切に思う気持ちや将来の夢や希望の実現とも結びつけながら包括的に説明することが大事になります。



ピア・エドゥケーターは、ジョイセフスタッフから説明を受けた後、まずはそれぞれのグループで、四苦八苦しながらもマギーエプロンを使いながら説明を練習し、その後参加者みんなの前で発表を行いました。



2日目は、ピア・エドゥケーター自身がコミュニティで啓発活動を行う際にうまく答えられるかどうか不安に感じていたり、疑問に思っていたりする性と体に関する質問、つまり教科書やマニュアルにはのっていない「そこが知りたい!」の質問を各グループから出し合ってもらい、IPPFカンボジアの専門スタッフの指導も得ながら、望ましい回答案をみんなで検討しました。



最終的に10個に絞った質問と回答は、参加者自らがスゴロクゲーム（若者の保健に関する知識を楽しく学ぶためのゲーム）に記入しました。できあがったスゴロクゲームは実際に体験してもらい、楽しんで学ぶ方法について学びを深めました。完成した10個の質問と回答は、若者視点の情報としてウェブサイトにもアップし、カンボジア全国の若者たちに発信していきます。



若者が主体となる取り組みを成功に導くためには、周囲の大人からのあたたかなサポートづくりが不可欠です。そこで、ワークショップには、コミュニティの代表や高等学校の先生、政府の施設である保健センターの看護師など、コミュニティの大人にもオブザーバーとして参加してもらいました。自分たちの発言にじっくり耳を傾け、また時には助言をしてくれるコミュニティの大人たちからの期待と声援は、ピア・エドゥケーターにとって大きな刺激になったと思います。

ワークショップに参加した若者たちからは、新しい知識を身につけることができ自信がついたといったコメントの他、ピア・エドゥケーター同士の交流を深めることで団結心が養えたといったコメントも多く寄せられました。

コミュニティの若者たちの命と健康を守るピア・エドゥケーターのこれからの活動に期待をしたいと思います。

### 3. 再生自転車海外譲与及び自転車による生活向上の有効性現地調査

#### 【再生自転車海外譲与】

(<http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/how/commodities/recyclebicycle/>)

途上国では1日に約800人の女性が、妊娠や出産が原因で命を落としている。その原因のひとつとして、村人の自分たちの健康に関する知識や意識の不足、保健医療施設へのアクセスの問題があげられる。一方、途上国では毎日2万人に上る18歳未満の少女が出産している課題もある。これらの問題に対処するために、途上国の農村地域で

は、性を含む思春期保健に関する正しい知識や情報を若者に理解してもらうために、同年代の若者による仲間啓発活動を実施するため、「ピア・エデュケーター」と呼ばれる若者保健ボランティアを育成し、各村々での巡回啓発活動を行っている。日本から贈られた再生自転車は、ピア・エデュケーターの啓発活動を効率よく行うことができるようにするための重要な役割を担っている。



寄贈された再生自転車で村々の若者を訪ね、思春期保健の啓発活動を行うピア・エデュケーター（カンボジア）



ザンビアのピア・エデュケーターも寄贈された再生自転車を活用し、村々の若者を対象に、HIV エイズの予防を含む思春期保健の啓発活動を行う（ザンビア）

平成26年度は、途上国のニーズと要望に応えるために、ザンビア、セネガル、モンゴル、ガーナ、カンボジアの5カ国に2250台の分解自転車を寄贈した。

#### 【人力発電自転車による生活向上の有効性現地調査】

➤ のべ25名(男性16名、女性9名)から得られた人力発電自転車の利用状況調査の結果、下記の結果を得られた。

- ・ 走行時でも、定置時でも、自転車を漕ぐことで、十分に発電と蓄電ができた。
- ・ 蓄電された電気は、携帯電話の充電に十分に対応できる。妊産婦の緊急時に必要な携帯電話の充電には必要不可欠なものであり、ニーズが大きいことが分かった。



- ・ 想像以上の長時間にわたる明るい照明がとれ、明かりがない今までの生活が変わるという大きな驚きをもち、照明用の電気として十分な機能が得られた。
- ・ 発電させる労力が大変であるとの感想が40%あった。平たんではない走行する道の状況などから、発電するまでの漕ぎ出しの重さ（負荷）を感じているとの感想に対し、今後は改良型を要する課題が見られた。
- ・ 現時点では自転車を漕ぐ労力の大変さもあるが、電気を得られる魅力の方が上回っていると評価される。

## 2 予想される事業実施効果

本事業は、途上国の村の女性たちに対する啓発活動の成果を図るために、住民に最も身近な存在にある保健ボランティアの育成研修事業を実施し、また、育成された保健ボランティアの活動をサポートする支援でもある。開発途上国では、毎日2万人に上る18歳未満の少女が出産をしている状況がある中で、成人のHIV感染率が高く、また若者の多いカンボジアでは、若者の望まない妊娠やHIV／エイズ、性感染症の課題は急務である。その課題の改善の為に、若者保健ボランティアの育成研修活動は必要不可欠である。育成される若者保健ボランティアは、同世代の一般若者の良き相談相手として、思春期保健やHIVの予防等に関する知識や情報を伝えることにより、若者の正しい性行動の変容や医療施設へのアクセスが増加し、思春期保健の向上に寄与することが期待される。

## 3 本事業に係る成果物

無し

## 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人ジョイセフ（コウエキザイダンホウジン ジョイセフ）

住 所： 〒162-0843

東京都新宿区市谷田町1-10

代 表 者： 代表理事 山口澄江（ヤマグチ スミエ）

担 当 部 署： 市民社会連携グループ（シミンシャカイレンケイグループ）

担 当 者 名： プログラム・アドバイザー 簡野芳樹（カンノ ヨシタツ）

電 話 番 号： 03-3268-5877

F A X： 03-3235-9774

E - m a i l： resource@joicfp.or.jp

U R L： <http://www.joicfp.or.jp>